

# 「支所守れ」と最後までたたかいた共産党議員団

## 市民運動との絆が大きく前進、この力で市政の転換をめざします

### ◆「市議選で信を問え」とたたいた西村議員

廃止表明から1年で結論を出すのは早すぎます。この間、反対意見はもちろん、容認意見でも様々な条件が出されました。今議会で採決することにこだわらず、市議選後でもよいはず。市長は「パブコメで意見をいただいた」と反論しましたが、それならなおさら、パブコメに耳を傾けるべきです。

### ♣支所廃止条例に反対討論をした工藤議員

マルチコピー機をスーパーや郵便局に設置するので支所廃止は問題ないとしていますが、マイナンバーカードを持っている方しか使用できません。「カードを持たない方の切り捨てではないか」との指摘には何も答えていません。こうした方々への対策もないなかでの支所廃止は行うべきではありませんと主張しました。

### ♠支所に防災担当職員の配置を求めた梅津議員

各地域において進んでいる図上訓練。町内会・地域包括支援センター・防災士などが連携して取り組んでいます。しかし、なかなか広がりません。であれば、行政が「要」になるべきです。これはデジタル化ではできません。支所に防災担当の職員を配置し、地域に置ける防災訓練の強化を提案しました。

**市は大失態を謝罪**  
12月議会でも、共産党の4人の議員は全員が一般質問で、支所問題を取り上げました。村上議員は、パブコメを取り上げ、1600に近いパブコメを市長は一・二時間しか見ておらず、部長でも数時間、まともな検討したとは言えないこと。パブコメの最中に、ファックスの電源を一時的に切り、市民意見を受信しなかった重大問題も暴き、本会議場で部長を謝罪に追い込みました。

### 問責決議を提案 市長の責任を厳しく問う

市長は、支所問題にかかわって、説明会でも、パブコメでも、市民が示した多くの反対意見を無視し続けました。市民の民意を踏みにじるやり方は、民主的な市政運営とは程遠いものです。そ

ここで共産党議員団は、「議会からの様々な指摘にも誤りを正すことなく、市政を混乱させ、市民サービスを低下させた」として、市長の責任を問う『問責決議』を提案し、最後まで市長を厳しく追及しました。

12月16日、3支所1分室の廃止条例が採決され、共産党、市民連は反対しましたが、賛成多数で強行可決されました。しかし、一年間にわたった市民運動と、それに支えられた共産党の論戦は特筆すべきものでした。蝦名市政をギリギリのところまで追いつめました。

**子どもの通院費助成の拡大も支所存続も**  
賛成会派は、「支所廃止で浮いたお金で子どもの医療費助成の拡大」などと質問、市民の間に分断をもちこみました。その中で、共産党議員団は、「市民の多くは、子どもの医療費無料化の拡大も、支所の存続も、二つとも願っている。両方もやるべきだ」と主張しました。



今日が採決という日には、突風のなか、早朝から市役所前で、「支所存続」のプラカードをもった市民のスタンディングが行われました。こうした市民のがんばりこそが、共産党議員団の論戦を光らせたのです。



支所廃止は高齢者、障がい者と地域の切り捨てそのものです

いつも市民と一緒に議会質問には多くの傍聴者が駆け付けました。

市民が主人公  
日本共産党

釧路市議団だより

発行：日本共産党議員団 <http://jcpsigi.com/>  
釧路市役所本庁舎2階 TEL・FAX 0154-23-5212

2022年  
12月25日